

明るい選挙 投票率向上を願って

誰にもじゃまされずに、自分の考えで正しく投票する選挙を進めるため、「明るい選挙推進運動」に取り組んでいます。



住作
三郷小学校6年 赤羽 由里子さんの作品



2等
堀金中学校1年 清澤 千夏さんの作品

明るい選挙啓発ポスター県 査で2作品が入選

明るい選挙の実現に向け、今年も市内小中学校と高校の児童、生徒の皆さんから啓発ポスターを募集しました。その結果、約400点を超える応募をいただきました。

応募いただいた啓発ポスターが県での審査を受け、市内からは2作品が入選となりました。これらの作品は今後、全国審査に出展されます。なお、これより先に選考された松本地方審査の入選13作品は、県松本地方事務所のホームページに掲載されています。

たくさんのご応募ありがとうございました。

選挙が公示されると、明るい選挙推進協議会委員が中心となり、人が多く集まる場所、投票を呼びかけるチラシなどを配布します。皆さんのご理解をお願いします。

市明るい選挙推進協議会委員（敬称略）

氏名	住所
熊藤 岩雄	豊科（成相区）
中山 芳子	豊科（新田区）
古幡 孝朗	穂高（牧区）
矢野口 和弘	穂高（新屋区）
丸山 康子	穂高（等々力町区）
中田 正志	三郷（南小倉区）
新井 裕子	三郷（一日市場区）
平倉 勝美	堀金（倉田区）
小林 慎治	明科（明科区）
望月 静美	明科（明科区）

明るい選挙推進運動

この運動は、選挙違反のないきれいな選挙が行われること、有権者がこぞって投票に参加すること、有権者が普段から政治と選挙に関心を持ち、候補者の人物や政見、政党の政策などの見る目を養うことを目指し行われます。

子どもと地域を 犯罪から守る方法

「人」より「場所」に注意せよ！

講師の小宮信夫こみやのぶおさんは、立正大学文学部社会科学科教授で、地域安全マップの開発者。犯罪から身を守る方法として、「不審者」「危ない人」に気を付けるより「危ない場所」に注意することが重要だと主張します。それは「不審者」を見た目だけで判

危ない場所＝ 入りやすい場所＋見えにくい場所

断するのは難しいが、「危ない場所」は見ただけで分かるという理論に基づくものです。

危ない場所とは？

小宮さんは、2つの条件が重なる場所が、危ない場所だと説明します。

1つは「入りやすい場所」で、犯人が逃げやすいような場所を示しています。もう1つは「見えにくい場所」で、目撃されにくい場所を示しています。

子どもの 判断力を養う

10月7日には、豊科東小学校でマップ作りが行われました。参加したのは5年生55人ほどで、小宮さんの説明を聞いた

後、7グループに分かれて通路などを歩き、マップ作りを行いました。最初は、「入りやすい見えにくい場所」が発見できないうちも見受けられました。が、「ここは簡単に車が入れるよね」、「窓があっても誰か見ている感じがしないよね」と引率者の解説を受けながら歩いていくと、次第に自ら指摘できるようになっていきました。

小宮さんは「マップ作りに参加することで予想能力を高めることが狙い。ものづくりでなく、ひとつづくりが大切」と強調していました。



子どもを狙った重大事件が全国で相次ぎ、社会的な関心が高まる中、安曇野防犯協会連合会と安曇野警察署は10月6日、「地域安全マップ」についての講演会を開催しました。

地域医療

安曇野赤十字病院の建て替え工事が始まる



式典には、日赤や近隣住民、周辺自治体関係者など約100人が出席した。

豊科の安曇野赤十字病院は10月1日、建て替えの起工式を現病棟の西側で行い、平成22年7月の新病棟使用開始を目指して工事をスタートしました。

市はこれまで建設支援検討委員会を組織し、要望書の提出などを行ってきましたが、建設事業へは合併特例債を活用し、3カ年で36億円余を補助する予定です。

近隣自治体代表としてあいさつした平林市長は、「高次医療を担う中核病院として、地域住民には必要不可欠と考えている。皆さんが安心できる施設となって欲しい」と話しました。

市民活動

市民活動センター「くるりん広場」がオープン



オープンに先立ち、センターの運営管理に関してパートナーシップ協定を結んだ。

市民と行政の協働によるまちづくりの拠点として開設準備が進んでいた市民活動センター（通称名：くるりん広場）が、10月7日穂高総合支所西にオープンし、関係者約120人が見守る中、オープニングセレモニーが行われました。

運営を担う「わの会」代表の今泉 一はじめさんは、「市民活動のためのベースキャンプができた。手探りで進めることになるが、主役は市民。住みよいまちとするため取り組んでいきたい」とあいさつしました。